

幼保一元化(認定こども園)Q&A

※これは、これまでの保護者説明会で、出された質疑を Q&A にまとめたものです。

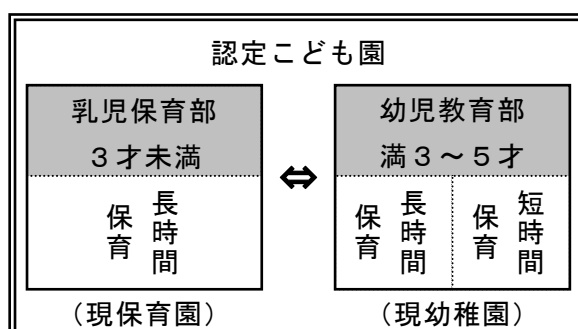
Q：認定こども園って、どんな施設ですか。

- 認定こども園は、これまでの保育園機能(長時間保育)と幼稚園機能(短時間保育)の両方を合わせもつもので、保育に欠ける・欠けないにかかわらず入園することができます。

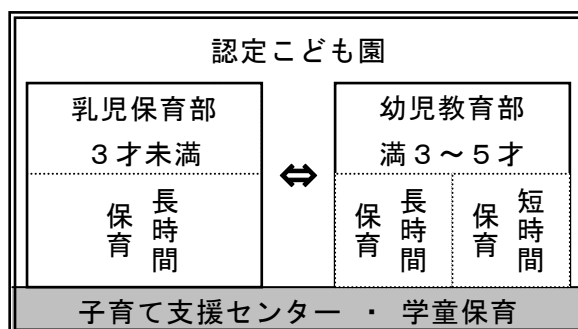
※保育に欠けるとは、日中お仕事などでお子さんを養育する大人がいないご家庭のことです。



- 今回の案では、3歳未満の乳児保育部は現保育園で、満3～5歳の幼児教育部は現幼稚園でというように2つの園舎を有効活用する形になってはいますが、全体で1つの認定こども園ですので、送迎や教員の移動などで一体的な運営が可能となります。



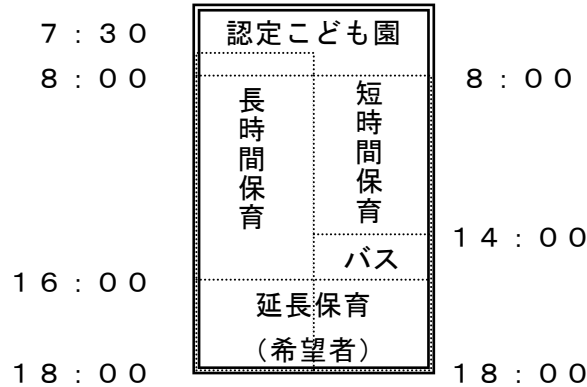
- 認定こども園には、全ての子育て家庭を対象に、子育て不安に対応した相談活動や親子の情報交換の場の提供などを行う【子育て支援センター】も設置しますので、気軽にお越しいただけます。その他に、小学校就学児の【学童保育】も実施します。



Q：保育時間は、どうなりますか。

- 長時間保育のお子さんは、今の保育園と同じ（延長保育等）で変わりありません。
短時間保育のお子さんは保護者の希望によって、今後検討していくようになります。
（夏休みは自由登園等）

（例）



Q：保育・教育方針（園行事・園服）等の違いは、どうなりますか。

- 保育園・幼稚園それぞれの方針を引き継ぐかたちで、3歳未満の乳児保育部は保育中心、満3～5歳の幼児教育部は小学校へのステップとしての教育中心になると考えています。園の行事や園服等については、保護者の希望によって今後検討していくようになります。
- 子ども達は乳児保育部、幼児教育部のどちらに入園しても同じ金山の子どもとして共通理念のもとに幼児教育・保育を実施していきます。

Q：どんな子が、入園できますか。

- 3歳未満児(3歳の誕生日前)は、今の保育園と同じように保育に欠ける子が乳児保育部に入園することができます。満3歳児(3歳の誕生日以降)以上は、保育に欠ける・欠けないにかかわらず全員が入園することができます。更に満3歳～3歳児は保護者の希望により、乳児保育部と幼児教育部のいずれかを選択できるように考えています。
- 【子育て支援センター】は、お子さんの年齢にかかわらず利用できます。【学童保育】は、金山町内の小学校に在学する児童が利用できます。

Q：入園の手続きは、どうなりますか。

- 直接、こども園に申し込みするようになります。園と保護者の直接契約になります。

Q：通園方法は、どうなりますか。

○乳児保育部は、保護者送迎が原則となります。幼児教育部は、園バスと保護者送迎のどちらかを選択することができます。また、保護者送迎の場合は、乳児保育部と幼児教育部のいずれか一方への送迎を選択できます。乳児保育部に登園した子どもたちは園バスで幼児教育部に移動します。（例：2歳と4歳の兄弟の場合は、2人とも乳児保育部への送迎だけで済むように考えています。）

Q：保育料はどうなりますか。

○現在は、前年の所得によって段階的にきめられています。（保育園は毎月の保育料に差があり、幼稚園では、2月に一括して就園奨励費が支給されています。）

※これまでは、所得の低い層は保育園の方が低く、所得が高くなると保育園の方が高い、という現象がありましたが、これは保育時間や給食の有無により、一概に言うことはできません。

○現在の両園の保育料を参考にし、なるべくこれまで以上にならないように調整します。

Q：お昼の給食は、どうなりますか。

○現在の保育園は町給食センターから提供を受けており、幼稚園は弁当持参となっています。これからは、乳児保育部は自園給食、幼児教育部は小中学校と同じように、給食センターからの外部搬入を考えています。

※自園給食とは、現在の保育園にある給食設備を利用して、園内で給食を作ること、離乳食など乳児に適した給食を提供することもできるようになります。

Q：一挙に1つの建物で一元化しないのは、どうしてですか。

○町や法人の財政状況からも、新たな施設を建設することは大変厳しい状況にあります。また、現在、保育園と幼稚園の園児数を合わせると140名程になり、どちらか一方にまとめることもできません。そのため、今ある施設を有効活用していくものです。

○数年後、園児数が減少してから一挙に一元化しても遅くないのではというご意見もありますが、今から長期の見通しをもって取り組んでいかなければ、いざその時になって対応するのは、手遅れになる可能性があります。今現在できることを着実に実行しながら、完全な一元化に向けて取り組んでいきたいと考えています。

○異年齢同士の関わりはとても重要なことですので、両園の交流事業をカリキュラムに取り入れるほか、延長保育や学童保育等の機会を通じて、十分に確保していくようにしていきます。

Q：一元化の方向性が示されました。保護者等からの意見はどうなるのでしょうか。

- 平成20年3月の“金山町における今後の「就学前 教育・保育（幼児教育）」の在り方について”の答申を受けて【実務担当者会】で具体的に検討したところ、一元化にむけた「具体的な（案）」があるほうが、「保護者としても意見等が出しやすいだろう」ということで、今回ある程度の方向性を事前に示したうえで、町民の皆さんの意見を伺っているところです。これらを参考にして、今後検討していくようになります。
- 今後は、さらに具体的な検討会・説明会なども、時期を逸することなく開催したいと思います。また、その場合は、これから親になる世代も含め、広く町民の皆さんにもお集まりいただけるものにしていきたいと考えています。